

平成 30 年度  
日本商工会議所

---

# 第151回

## 簿記検定試験

3 級

【解答・解説】

この解答例は、当社で作成したものです。  
解答中に記載してある配点は、当社で考えた予想配点です。

**LEC**東京リーガルマインド

著作権者 株式会社東京リーガルマインド  
(C)2019 TOKYO LEGAL MIND K.K., Printed in Japan  
無断複製・無断転載等を禁じます。  
有効期限 2019年2月24日/2019年6月8日



## 第151回 解答

### 第1問 (20点)

	仕		訳	
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	売 上	350,000	売 掛 金	350,000
2	仕 入	850,000	買 掛 金	850,000
3	建 物 土 地	1,030,000 3,090,000	普 通 預 金	4,120,000
4	旅 費 交 通 費 消 耗 品 費	11,250 5,000	未 払 金	16,250
5	借 入 金 支 払 利 息	200,000 3,000	普 通 預 金	203,000

仕訳1組につき4点。

### 第2問 (10点)

A	B	C	D	E
現 金	普 通 預 金	次 月 繰 越	仕 入	前 月 繰 越
①	②	③	④	⑤
11,000	925,000	418,000	95,000	9,000

各1点。

## 第3問 (30点)

## 合計試算表

借方合計		勘定科目	貸方合計	
2月28日	1月31日		1月31日	2月28日
★ 362,000	110,000	現金	2,500	304,500
		現金過不足		2,000
★ 651,650	350,000	普通預金		45,000
★ 4,585,000	3,660,000	当座預金	820,500	3,264,500
1,000,000		定期預金		
★ 2,635,000	1,615,000	売掛金	690,000	1,615,000
1,230,000	1,230,000	繰越商品		
300,000	300,000	従業員貸付金	50,000	100,000
1,000,000	1,000,000	備品		
★ 1,135,000	320,000	買掛金	1,135,000	1,395,000
★ 60,000	30,000	所得税預り金	60,000	95,000
		備品減価償却累計額	430,000	430,000
		資本金	5,702,500	5,702,500
★		売上	925,000	2,195,000
		受取利息		50
★ 1,330,000	820,000	仕入	5,000	5,000
550,000	250,000	給料		
15,000		広告宣伝費		
★ 33,400	3,000	支払手数料		
11,500	5,500	水道光熱費		
15,000	7,000	通信費		
★ 240,000	120,000	支払家賃		
15,153,550	9,820,500		9,820,500	15,153,550

★の行につき3点。

# 第 151 回 解 答

## 第 4 問 (10 点)

(1)

### 商品有高帳

#### X 商品

平成 30 年	摘 要	受 入			払 出			残 高		
		数 量	単 価	金 額	数 量	単 価	金 額	数 量	単 価	金 額
6	1 前月繰越	100	300	30,000				100	300	30,000
	5 売 上				60	300	18,000	40	300	12,000
	8 売上戻り	10	300	3,000				50	300	15,000
	12 仕 入	150	308	46,200				200	306	61,200
	22 売 上				180	306	55,080	20	306	6,120
	30 次月繰越				20	306	6,120			
		260	—	79,200	260	—	79,200			

(2)	(3)
¥ 70,080	¥ 6,160

(1)  につき 2 点 (2) 2 点 (3) 2 点。

第5問 (30点)

貸借対照表

平成30年12月31日

(単位：円)

現金	( 135,000 )	買掛金	813,000
普通預金	( 978,000 )	前受収益	( 33,000 )
売掛金 ( 500,000 )		資本金	4,396,000
貸倒引当金 ( △ 10,000 )	( 490,000 )	当期純(利益)	( 658,000 )
商品	( 235,000 )		
前払費用	( 12,000 )		
建物 ( 3,000,000 )			
減価償却累計額 ( △1,300,000 )	( 1,700,000 )		
備品 ( 600,000 )			
減価償却累計額 ( △ 50,000 )	( 550,000 )		
土地	1,800,000		
	( 5,900,000 )		( 5,900,000 )

損益計算書

平成30年1月1日から平成30年12月31日まで

(単位：円)

売上原価	( 1,998,000 )	売上高	3,890,000
給料	( 760,000 )	受取手数料	( 3,000 )
水道光熱費	( 162,000 )		
保険料	( 36,000 )		
通信費	( 32,000 )		
貸倒引当金繰入	( 6,000 )		
減価償却費	( 150,000 )		
雑(損)	( 1,000 )		
固定資産売却損	( 90,000 )		
当期純(利益)	( 658,000 )		
	( 3,893,000 )		( 3,893,000 )

□につき3点。

### 【3級総評】

全体的には基本から標準レベルの難易度の問題でした。合格答練や問題集でアウトプット練習を本試験対策として行っていれば、第1・3・5問は、比較的スムーズに解答することが出来たと思います。ここで、しっかりと得点を積上げることができたかが最大のポイントです。第2・4問は、やや応用的な内容も含まれていましたが、過去にも同様の内容が本試験で出題されているので、万遍なく学習していた方は、高得点が期待できる内容でした。そのため、努力した結果が合格に結びつきやすい問題であったといえます。

簿記の学習では、仕訳、勘定記入、試算表作成、財務諸表作成が最重要論点ですが、日頃から、1年間の流れを意識しながら、仕訳・転記・集計をすることで、基本的な部分の理解をすることが重要です。

### 【解説】

#### 第1問

仕訳に関する問題です。勘定科目の指定があるので誤字等がないよう、正確に記入するように注意しましょう。

##### 1. 売上返品

売上返品は、返品分だけ取引をなかったことにするので、売上を減少させます。また、問題文より、掛代金から差引くため、売掛金を減少させます。

##### 2. 仕入取引

中古自動車の販売業を営んでいるお店が販売用の中古車を購入したときは、売るための商品を購入したことになるので、仕入取引があったと考えます。また、代金は掛けとしているので、掛仕入があったと考えて処理します。

##### 3. 固定資産の購入

建物や土地の購入に際して、売買手数料などの付随費用がかかっている場合は、建物や土地の取得原価に算入するので、売買手数料を加算した金額が建物や土地の取得原価となります。

##### 4. 従業員が立替払いした費用の処理

従業員が立替えた費用は、費用として計上します。また、従業員へは立替えた分を支払う必要があります。本問では、給料の支払時に給料と一緒に支払うために、費用計上時には未払金で処理しておきます。

##### 5. 借入金の返済と利息の支払い

借入金が返済によって減少します。また、30日分の利息は日割計算で求め、支払利息で処理します。

$$\text{支払利息} : \text{¥}1,000,000 \times 3.65\% \times \frac{30\text{日}}{365\text{日}} = \text{¥}3,000$$

## 第 2 問

勘定記入に関する問題です。買掛金勘定と買掛金元帳との関係性に着目して解答していきます。基本的には、日付順に記入内容を考えていきます。

## 10/ 1 前月繰越の記入

買掛金勘定の前月繰越の記入は、仕入先ごとの前月繰越額の合計額と一致します。よって、買掛金勘定の前月繰越額 ¥330,000 は、北海道商店勘定と沖縄商店勘定の前月繰越額の合計となります。そのため、沖縄商店勘定の前月繰越額は ¥120,000 となります。

沖縄商店勘定の前月繰越：¥330,000－¥210,000＝¥120,000

## 10/ 8 掛仕入

沖縄商店勘定の貸方 2 行目より、沖縄商店から掛仕入を ¥418,000 行っていることが分かります。

(借) 仕	入	418,000	(貸) 買掛金 ( 沖縄 )	418,000
-------	---	---------	----------------	---------

## 10/ 9 仕入返品

沖縄商店勘定の借方 2 行目を推定後、貸借差額で ¥9,000 の仕入返品があったことが分かります。

(借) 買掛金 ( 沖縄 )	9,000	(貸) 仕	入	9,000
----------------	-------	-------	---	-------

## 10/15 買掛金の現金での支払い

買掛金勘定の借方 2 行目と沖縄商店勘定の借方 2 行目より、沖縄商店に対する買掛金 ¥331,000 を現金で支払っていることが分かります。

(借) 買掛金 ( 沖縄 )	331,000	(貸) 現	金	331,000
----------------	---------	-------	---	---------

## 10/21 掛仕入

買掛金勘定の貸方 3 行目と北海道商店勘定の貸方 2 行目より、北海道商店から掛仕入を ¥821,000 行っていることが分かります。

(借) 仕	入	821,000	(貸) 買掛金 ( 北海道 )	821,000
-------	---	---------	-----------------	---------

## 10/22 仕入返品

買掛金勘定の借方 3 行目と北海道商店勘定の借方 1 行目より、仕入返品を行っていることが分かります。金額は、北海道商店勘定の借方 3 行目の次月繰越額を推定後、貸借差額で ¥11,000 を求めます。

(借) 買掛金 ( 北海道 )	11,000	(貸) 仕	入	11,000
-----------------	--------	-------	---	--------

## 10/25 買掛金の普通預金での支払い

北海道商店勘定の借方 2 行目より、北海道商店に対する買掛金 ¥925,000 を普通預金から支払っていることが分かります。

(借) 買掛金 ( 北海道 )	925,000	(貸) 普	通	預	金	925,000
-----------------	---------	-------	---	---	---	---------

## 10/31 次月繰越の記入

買掛金勘定の次月繰越の記入は、仕入先ごとの次月繰越額の合計額と一致します。よって、買掛金勘定の次月繰越額 ¥293,000 は、北海道商店勘定と沖縄商店勘定の次月繰越額の合計となります。そのため、北海道商店勘定の次月繰越額は ¥95,000 となります。

北海道商店勘定の次月繰越：¥293,000－¥198,000＝¥95,000

## ※ 10/22 の取引について

厳密には、仕入値引きの可能性もありますが、平成 31 年度の区分表改定に関する商工会議所の発表内容を踏まえ、仕入返品としています。

## 第151回 解説

### 第3問

残高試算表の作成に関する問題です。

解答手順としては、まず、[平成30年2月中の取引]の仕訳を行い、次に仕訳をもとにして、勘定科目ごとに答案用紙の平成30年1月31日の合計試算表に加減算して集計し、答案用紙の平成30年2月28日の合計試算表を作成していきます。

[平成30年2月中の取引]

1日	(借)	売掛金	350,000	(貸)	売上	350,000
2日	(借)	仕入	260,000	(貸)	買掛金	260,000
6日	(借)	売掛金	220,000	(貸)	売上	220,000
7日	(借)	支払手数料	30,000	(貸)	普通預金	45,000
		広告宣伝費	15,000			
9日	(借)	所得税預り金	30,000	(貸)	当座預金	30,000
13日	(借)	売掛金	450,000	(貸)	売上	450,000
"	(借)	支払手数料	400	(貸)	現金	400
14日	(借)	現金	250,000	(貸)	売上	250,000
"	(借)	現金	2,000	(貸)	現金過不足	2,000
15日	(借)	普通預金	301,600	(貸)	現金	301,600
16日	(借)	仕入	250,000	(貸)	当座預金	250,000
19日	(借)	普通預金	50	(貸)	受取利息	50
20日	(借)	給料	300,000	(貸)	所得税預り金	35,000
					従業員貸付金	50,000
					当座預金	215,000
"	(借)	当座預金	925,000	(貸)	売掛金	925,000
"	(借)	買掛金	815,000	(貸)	当座預金	815,000
26日	(借)	定期預金	1,000,000	(貸)	当座預金	1,000,000
27日	(借)	支払家賃	120,000	(貸)	当座預金	120,000
28日	(借)	水道光熱費	6,000	(貸)	当座預金	14,000
		通信費	8,000			

## 第 4 問

商品有高帳に関する問題です。

## 問 (1)

商品有高帳の記入に関する問題です。商品有高帳は、商品ごとの在庫に関する明細を仕入原価で記入する補助簿です。つまり、商品の数量や仕入原価に変更が生じた場合に記入をします。

移動平均法では、基本的には、仕入れの都度、平均単価を計算して払出単価を決定します。

商品有高帳を締切際には、月末残高の内容を払出欄に記入し、受入欄と払出欄の数量と金額の合計が一致することを確かめます。

6月1日 前月繰越 (答案用紙に記入済)

前月より繰越されてきたX商品の数量・単価・金額を受入欄に記入し、残高欄にも記入します。

6月5日 売上

X商品を60個、@¥500で売上げているので、商品有高帳の払出欄に記入します。なお、商品有高帳は、商品在庫について記録する補助簿なので、売価で記入することはありません。あくまでも、払出した商品の原価に基づいて記入します。また、払出欄に記入する単価は、売上直前の残高欄に記入されている単価です。

6月8日 売上返品

X商品が10個返品され、数量と金額が変動するため、商品有高帳に記入します。また、問題文の指示より、受入欄に記入します。受入欄の単価の記入にあたっては、売上げたときの払出単価で記入します。なお、平均単価は変わりません。

6月12日 仕入

X商品を150個、@¥308で仕入れているので、商品有高帳の受入欄に記入します。

$$\text{平均単価} : \frac{\text{¥}15,000 + \text{¥}46,200}{50\text{個} + 150\text{個}} = \text{@¥}306$$

6月22日 売上

X商品を180個、@¥490で売上げているので、商品有高帳の払出欄に記入します。

6月30日 次月繰越

X商品の次月繰越額を払出欄に記入して締切を行います。

## 問 (2)

売上原価は、販売した商品の原価を意味します。基本的には、売上時に払出欄に記入した金額の合計額が売上原価になります。ただし、売上返品があった場合は、その分だけ販売した商品が減少するので、売上時に払出欄に記入した金額の合計から控除しなければいけません。

$$\text{売上原価} : \text{¥}18,000 - \text{¥}3,000 + \text{¥}55,080 = \text{¥}70,080$$

## 問 (3)

先入先出法で記入した場合、払出時に先に仕入れた商品から先に払出したと考えます。そうすると、月末に残っている在庫は、後から仕入れた商品から構成されることが分かります。つまり、本問における月末の在庫は20個ですが、これは、12日に仕入れた商品のうちの20個と考えられます。よって、次の計算式で、先入先出法にもとづいた次月繰越高が求められます。

$$\text{次月繰越高} : \text{@¥}308 \times 20\text{個} = \text{¥}6,160$$

## 第151回 解説

### 第5問

財務諸表作成に関する問題です。収益・費用の勘定の決算整理後残高を損益計算書に、資産・負債・純資産の勘定の決算整理後残高を貸借対照表に記入します。財務諸表に記入するときは、仕訳で使う勘定科目と財務諸表上の表示科目の違いに留意しながら記入します。

決算整理事項等は次のとおりです。

#### 1. 現金の普通預金口座への預入れ

(借) 普通預金	50,000	(貸) 現金	50,000
----------	--------	--------	--------

#### 2. 現金過不足

現金過不足¥3,000のうち、通信費の記帳漏れ¥2,000が判明しているので、通信費を計上します。また、残額は、原因不明のため、雑損で処理します。

(借) 通信費	2,000	(貸) 現金過不足	3,000
雑損	1,000		

#### 3. 仮受金

仮受金全額が、売掛金の回収と判明したので、仮受金を取消し、売掛金の減少の処理をします。

(借) 仮受金	68,000	(貸) 売掛金	68,000
---------	--------	---------	--------

#### 4. 訂正仕訳・車両運搬具の売却

車両運搬具を売却したときに、車両運搬具減価償却累計額を減少させる処理をしていなかったため、固定資産売却損が多く計上されています。そこで、車両運搬具減価償却累計額を減少させるとともに、固定資産売却損を同額、取消します。

(借) 車両運搬具減価償却累計額	700,000	(貸) 固定資産売却損	700,000
------------------	---------	-------------	---------

#### 5. 貸倒引当金の設定

仮受金の精算により、売掛金の残高が減少していることに留意して、貸倒見積額を計算します。そして、貸倒引当金勘定の残高が貸倒見積額になるように、差額補充法で不足分を繰入れます。

(借) 貸倒引当金繰入	6,000	(貸) 貸倒引当金	6,000
-------------	-------	-----------	-------

売掛金：¥568,000－¥68,000＝¥500,000

貸倒見積額：¥500,000×2%＝¥10,000

貸倒引当金繰入：¥10,000－¥4,000＝¥6,000

#### 6. 売上原価の算定

期首商品棚卸高を繰越商品勘定から仕入勘定に振替えます。そして、期末商品棚卸高を仕入勘定から繰越商品勘定に振替えます。これにより仕入勘定の決算整理後残高は売上原価となります。

(借) 仕入	198,000	(貸) 繰越商品	198,000
(借) 繰越商品	235,000	(貸) 仕入	235,000

#### 7. 減価償却

(借) 減価償却費	150,000	(貸) 建物減価償却累計額	100,000
		備品減価償却累計額	50,000

建物：(¥3,000,000－¥0) ÷ 30年＝¥100,000

車両：(¥600,000－¥0) ÷ 5年 ×  $\frac{5ヶ月}{12ヶ月}$  = ¥50,000

8. 保険料の前払い

決算整理前残高試算表の保険料のうち翌期分を翌期の保険料として計上するために、当期の集計からは除きます。なお、前払保険料は、貸借対照表では前払費用と表示します。

(借) 前 払 保 険 料	12,000	(貸) 保 険 料	12,000
---------------	--------	-----------	--------

9. 受取手数料の前受け

決算整理前残高試算表の受取手数料のうち 11 ヶ月分は翌期分であるため、当期の集計からは除きます。なお、前受手数料は、貸借対照表では前受収益と表示します。

(借) 受 取 手 数 料	33,000	(貸) 前 受 手 数 料	33,000
---------------	--------	---------------	--------

$$\text{前受手数料} : \text{¥}36,000 \times \frac{11\text{ヶ月}}{12\text{ヶ月}} = \text{¥}33,000$$